

トロス司教座聖堂出土碑文の概要(二) 二〇一一年度の発掘から

師 尾 晶 子

キーワード

碑文 スポリア 碑文の部材転用 司教座聖堂 トロス リキア

二〇一一年度の調査では、北側廊および北側翼廊について堆積物を除去し、昨年の発掘と同レベルまで掘り下げた。この作業によりあらたに碑文数点が発見され、またその知見に照らし、昨年度発見の碑文にも新たな碑文を見いだした。発掘シーズンの終了時に(一)の葬礼記念碑がフェティエ博物館の保管庫に運ばれた以外は、移動可能なものは教会聖堂北側の空き地に設けられた石材の仮置き場に移された。今なお壁材等の部材としての役割を果たしているものについてはその場に残されている。以下、概要を報告する。

(一) 北翼廊第二室小祭壇D付近から発見された円柱状の葬礼記念碑(図1a・図1b・図1c)

北翼廊の第二室小祭壇Dの南、聖堂東壁近くから、直径〇・三五メートルほど、高さ〇・五九メートルほどの円筒形の葬礼記念碑が、ほぼ完全な状態で発見された。発見場所が祭壇部に近いことから、聖具等を置く台として転用されていたものと考えられる。文字の大きさは〇・〇一九×〇・〇二メートル。文字は克明に刻まれ、横線がくさび形に曲がったアルファ、三本の横線のみで構成されたクシー、左右の縦線の長さが等しいパイ、リボンを結んだような形のファイ、オミクロンの下に水平線が引かれた形のオメガが用

いられている。碑文は全体で一一行にわたる。夫であるフィロタス、息子のヒッポロコス、二人の孫カリアナクスとフィロタスが、死者であるアデイマントスの娘ラリオーのために建てた記念碑である。男性は、死者の父親を含め、すべてギリシア名をもっているのが注目される。ラリオーという名はこれまで知られていないが、類似の名前は、トロスを含めてリキア地方でとくに多く知られている¹⁾。

(二) 北側廊から発見された建築部材 (34、図2 aおよび図2 b)

高さ最大〇・一九メートル、幅、上部〇・二二メートル、下部〇・三七メートル、厚さ最大〇・二九メートル。文字の大きさは約〇・〇二メートル。横線がくさび形に曲がったアルファ、三本の横線のみで構成されたクシー、左右の縦線の長さが等しいパイ、といった字体が用いられている。三行のみ容易に読めるが、上部は部材として再利用された際に削られた痕跡が見られる。また底部は水平に切り落とされ、ノミ跡が残されている。読み取り可能な文字から皇帝への奉獻碑であると思われる。一行目に「[EB]ΛΙΟΙ [EP]ΛΙΚΟΙ」²⁾、二行目に「[護民官] 職権」³⁾「[---ΔΗΜΑΡΧΙΗΣ ΕΞΟΥΣΙΑΣ---]」⁴⁾、三行目に ΣΗΛΤΑ が読める。

(三) 北側廊から発見された建築部材 (6、図3 a、図3 b)

直方体に近い形の建築部材として再利用されたブロックで、碑文の刻まれている面は、高さ〇・二八メートル、幅最大〇・二二メートル。文字の大きさは〇・〇二六〇・〇三メートル。丸みを帯びたイブシロン、楕円形のおミクロンが用いられており、アルファとラムダの右線は、左右が交差する地点から斜めに飛び出している。全体にかなり目立つセリフで装飾されている。現存するのは四行で、二行目から四行目には対格形の人名の一部が刻まれている。碑文の性格については現時点では不明である。

(四) 北側廊から発見された建築部材 (20、図4)

直方体に近い形の建築部材として再利用されたブロック。碑文の刻まれている面は、高さ〇・二メートル、幅最大〇・二六メートル。厚さは約〇・四二メートル。文字三行分が残る。文字の大きさは〇・〇三二〇・〇三四メートル。おミクロンは大きな真円に近い字体が用いられ、おミクロン以外の文字はすべてセリフで装飾されている。一行目の文字にかぶさるようにして上部および右側に装飾と思われる五ミリ程度の幅の溝掘りが残されている。文字が無視されていることから、教会聖堂の建築部材に転用される以前にも何らかの再利用があったのかもしれない。現時点で碑

文の性格は不明である。

(五) 教会聖堂北外壁の南面（内側）の壁材として用いられた碑文（図5）

北側廊の堆積物を除去したことで建築部材として再利用されたモニュメントないし建造物の断片の碑文があらわになった。上下逆さまにはめ込まれている。露出している部分について、高さ $0\cdot5$ メートル、幅は上部約 $0\cdot6$ メートル、下部約 $0\cdot5$ メートル。文字の大きさは $0\cdot06$ 三〇・〇八七メートル。現存する三行の碑面は階段状になっており、一番高いのが一行目、二行目と三行目はそれぞれ $0\cdot09$ 九五メートルずつ掘り下げられている。また行の高さは、一行目が $0\cdot09$ 三メートル、二行目が $0\cdot09$ 一メートル、三行目が $0\cdot08$ 三メートルである。横線がくさび形に曲がったアルファ、真円に近い大きなオミクロン、左右の縦線の長さが等しいパイが用いられている。文字は深く明瞭に、整った字体で刻まれている。一行目のKATEの前に専門の石工の手になるであろう丁寧な削り跡が残されている。消された文字はそのセリフの痕跡からOZで終わる単語と推測されるが、おそらくKATEで始まる動詞の主体であり、また、字の大きさや入念な石刻から、この都市にしかるべき規模の建築物を建て、後に「記

憶の抹消」を受けた皇帝である可能性が高い。[---OZ] KATEIKENAYEN KA]と復元できるかもしれない。

(六) 教会聖堂北外壁の南面（内側）、翼廊の最奥の壁材に使われた碑文（図6）

石材の上に塗られたモルタルの隙間からわずかに数文字が見えるだけである。上下逆転した形で埋め込まれている。中央のオミクロンとユプシロンが完全に露出しており、両隣の文字が一部読める状態になっている。オミクロンは直径 $0\cdot06$ 五メートル、ユプシロンは高さ $0\cdot06$ メートル。

(七) 北側廊から発見された建築部材に刻まれた文字（図7）

ほぼ直方体の石材の右端にイプシロンの文字。石の大きさは高さ最大 $0\cdot27$ メートル、幅 $0\cdot46$ 三〇・四九メートル、厚さ最大 $0\cdot28$ メートル。文字の高さは $0\cdot03$ 七メートル。建築時の記号と思われるがいつの時代のものかは不明。同様の文字の刻まれた石材は、北翼廊の東外壁西側（内側）の壁材として用いられたものの中からも何点か確認された。アルファ、ベータ、ニューなどの文字が視認でき、両端にそれぞれ異なるアルファベットの刻まれたものも見られた。

(八) 北側廊と身廊の仕切りに使われた石材に刻まれた文字 (図8)

北側廊と身廊を仕切る列柱台座4番と5番の間のパラペット5の南側にパラペットの積石として再利用された柱の台座の側面(パラペット最上部)にシートとベータの二文字。シートはベータに対して九〇度回転した形で刻まれている。文字の大きさはシートが〇・〇三四×〇・〇三七メートル、ベータが高さ〇・〇六メートル。

(九) アトリウムの瓦礫から発見された建築部材 (D-38、

図9a・図9b)

昨年度の出土碑文の概要において(三)として記載した石材(図9a)について、本年度、石の形状を検討し直し、本稿(一)の葬礼記念碑と同様の円筒形であったものが、後に教会建築の部材に転用される際、直方体状に加工されていたことを確認した。その際、削り残された部分からさらに文字を確認することができた(図9b)。刻まれた文字はそれぞれ鮮明であったが、裏側に残されていた文字は各行一〜二文字にすぎず、有意の復元を行うことは困難である。ただし、この知見により、この碑文が全体で一三行から構成されていることが明らかになった。

注

(1) 女性の名前 $\Lambda\Lambda\Lambda\Lambda\Lambda$ に近い名前としては、 $\Lambda\Lambda\Lambda\Lambda\Lambda$ およびそれに類する名前がある。 $\Lambda\Lambda\Lambda\Lambda\Lambda$ という名は小アジアに多く、とくにトロスを含めてリキア地方で多く知られている。L. Zgusta, *Keinschriftliche Personennamen*, Prag 1964, 266-267, §790-6 参照。PHI #7 (<http://epigraphy.packhum.org/inscriptions/>) および SEG によれば、トロスでは TAM II 603, 618, 628, 638 および SEG 27. 938 の五例がある。

(2) 拙稿「二〇一〇年度発掘調査によるトロス教会聖堂出土碑文の概要」『史苑』七一一(二〇一一)一一六頁。

(千葉商科大学商経学部教授)



図 1 a



図 1 b



図 1 c

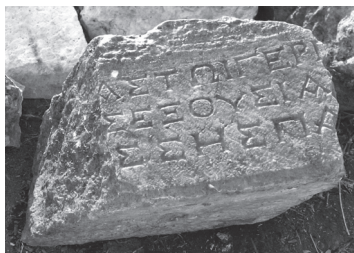


図 2 a



図 2 b



図 3 a



図 3 b

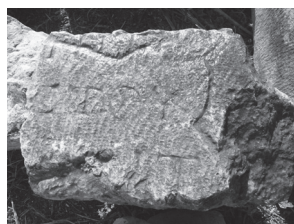


図 4

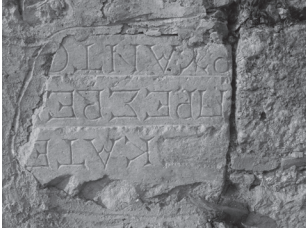


图 5



图 6

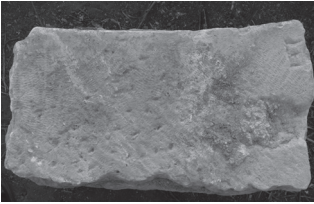


图 7



图 8



图 9 a



图 9 b

The Basilica Project, 2011: Inscriptions

MOROO, Akiko

During the summer season of 2011 we found a dozen inscriptions including an inscribed grave altar, two inscriptions on the wall. We post a brief description and photographs of the monuments.

ト
ロ
ス
教
会
聖
堂
出
土
碑
文
の
概
要
(
師
尾
)